

子どもたちの「あふれる笑顔 きらめく瞳」をめざして



中学校区一貫教育校園 玉野市立玉小学校 学校だより第20号（令和4年10月18日）

見物

から

見学

へ

校外学習の様子①

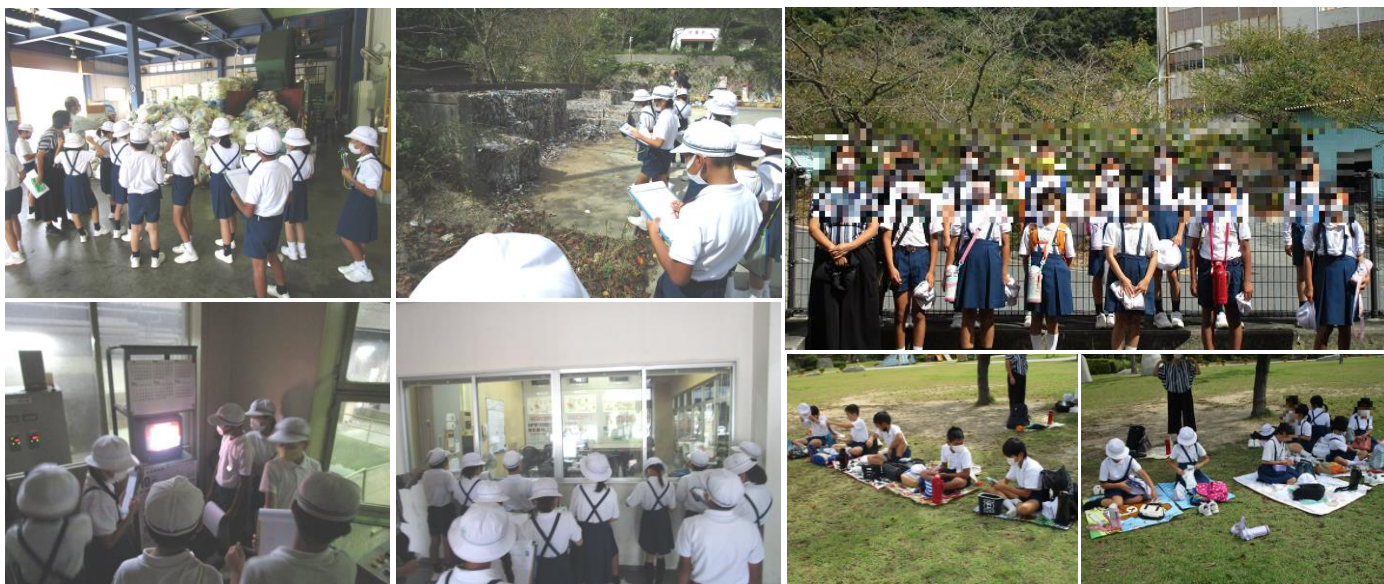
10月は、1～4年生がそれぞれ校外学習に行きます。

10月の児童朝会でみなさんに「**見物**」は【見て楽しむ、ただ見る】ということ、**見学**は【見て学ぶ】ということです。その場所に行って、実際に見たり聴いたりして、知っていることやできることを増やしたり、自分の考えをもったりしましょう」と話しました。

4年生

10月4日（火）

玉野市東清掃センター



みなさんが学んだこと・知ったこと（一部）【まとめ新聞より】

- 玉野市では1週間に600トンのごみが出る。（1年間で約2万トン）
- ごみ収集車は1日に100回、ごみをピットに運んでくる。
- 焼却炉（ごみをもやすところ）はとても深く、ごみは約800度～920度で完全に燃やす。
- 燃えたときにすごく灰が出ていた。その灰は別の場所に持って行く。ほこりやちりはフィルタでとって、煙突（えんとつ）からきれいな空気として出て行く。（煙突の高さは59メートル）
- コンピュータで管理されているので安全で安定した作業ができる。
- リサイクルプラザでは、まだ使えるけれど使わなくなったおもちゃや服などをリサイクルしたり他に使いたい人に無料でくれたりする。

みなさんの考え（見学を通して、考えたことの一部）【まとめ新聞より】

- ごみを絶対に道に捨てない。
- 地域のクリーン作戦などに積極的に参加する。
- ボンベは穴を開けて出す。カン・びんは水洗いをする。 など

少し難しいかもしれませんが、みなさんにも考えて欲しいので載せます。（お家の方も読んでください）

考えよう

大きな岩と小さな岩

（戸田 智宏 ものの見方が変わる座右の寓話 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2017）

「クイズの時間だ」 教授はそう言って大きな壺（つぼ）を取り出し、教壇の上に置いた。その壺に彼は一つ一つ岩を詰めた。壺がいっぱいになるまで岩を詰めて、彼は学生に聞いた。

「この壺は満杯か？」 教室内の学生が「はい」と答えた。

「本当に？」

そう言いながら教授は、教壇の下からバケツいっぱいの砂利（じり）を取り出した。その砂利を壺の中に流し込み、壺を揺すりながら、岩と岩の間を砂利で埋めていく。そしてもう一度聞いた。

「この壺は満杯か？」 学生は答えられない。一人の学生が「多分違うだろう」と答えた。

教授は「そうだ」と笑い、今度は教壇の陰から砂の入ったバケツを取り出した。それを岩と砂利の隙間に流し込んだ後、3度目の質問を投げかけた。

「この壺はこれでいっぱいになったか？」 学生は声をそろえて「いや」と答えた。

教授は水差しを取り出し、壺の縁（ふち）までなみなみと注いだ。彼は学生に最後の質問を投げかける。

「僕が何を言いたいのか分かるだろうか」

この後、話は次のように続いていきます。

「僕が何を言いたいのか分かるだろうか」という教授の問いかけに、一人の学生がこう答える。「大きな岩でいっぱいに詰まっているように見える壺であっても、小さい岩であれば、さらに仕事を詰め込むことができるように、どんなにスケジュールが忙しいときでも、最大限の努力をすればさらに予定を入れることができる」

これに対して、教授は「違う」と答え、この寓話（ぐうわ）が暗示していることを話す。「大きな岩を先に入れない限り、それが入る余地はその後、二度とない、ということなんだ」そして教授は学生に問いかける。

「君たちの人生にとって“大きな岩”とは何だろうか」

「それは仕事だったり、志であったり、愛する人であったり、家族であったり、自分の夢であったり…。ここで言う“大きな岩”とは、君たちにとって一番大切なものだ。それを最初に壺の中に入れなさい。さもないと、君たちはそれを永遠に失うことになる」

戸田氏は、壺の容積を【自分の人生の持ち時間】だと考えればよいと言います。誰もが限られた時間しか持っていません。したがって、自分にとって本当に大事なもので時間を埋めていくと、自分にとって本当に大事なものに割くべき時間を失ってしまう。結果として本当に大事なものを手に入れることができないまま、人生を終えることになることを教えてくれています。

要するに「大切なことに時間を使うために、自分で時間を管理することが大切だ」ということです。これはみなさんにとって（私も）今も、大きくなってからも必要なことです。しかしその前に立ちはだかる大きな壁があります。これをクリアしなければなりません。

①メディアをコントロールすること

みなさんの身の回りには、テレビ・ゲーム・ネット・YouTube などたくさんメディアでいろいろなことが発信されています。それを自分でコントロールするのか、その楽しさにやめられなくなって、メディアにあやつられるのか、どちらを選びますか？「楽しいけれど、本当にそれが自分にとって“大きな岩”なのか？」を考えましょう。

②自分にとって【大切なこと】を知ること

そもそも「自分にとって何が“大きな岩”（一番大切なもの）なのか？」を考えたことがないかもしれません。まずは【なりたい自分】を考えましょう。身近なことであれば、学期の始めに立てる「めあて」も【なりたい自分】です。2学期に立てた「めあて」をもう一度確認して、取り組んでも良いと思います。

高学年の人は、【得意なことは何か？】【どんなことが好きか？やってみたいか？】【周りの人にどんなことで役立ちたいか？】（志の三要素）から数年後の【なりたい自分】を考え、取り組んでいきましょう。

